

グリーティング

年を越えて気にかかっていることがあり、それは去年の秋からずっとです。同じ気持ちの方はきっといらっしゃるはずで、何とかしたいのに何もできないもどかしさをひきづったまま年を越しました。それはオーストラリアの森林火災のことです。すでに日本の国土の3割以上が焼滅し、10億匹以上の野生動物が焼死、コアラは絶滅危惧の可能性が大きくなり、水を求めて集団で人家に近づくワラビーやラクダは射殺され…。想像を絶する大火災は大気汚染など地球の環境にも大きく影響がでています。

実は、その火災被害の中のブレードウッドという小さな町に友人が暮らしています。今は海岸近くに避難していますが、時々届く彼女からのメールで、自宅はかろうじて焼け残ったけれど周りの林は見渡す限り焼野原。様子が一変しても動物たちは何とか適応しながら生き続けているようで、その一例としてカササギという鳥の鳴き声が変わってしまったことを伝えてきました。チチッ、チチッとさえずっていたのに、今はウ～、ウ～、ピ～。ひんぱんに鳴りひびく消防車のサイレンをまねて鳴いているのだそうです。カササギは身近に聞こえる音をまねる性質をもつ鳥ですが、消防車のサイレンの音をを真似るとは。本来ならほほえましいのでしょうか、現地の悲惨な様子が伝わってくる話のひとつです。

S. K



この家はかろうじて残りましたが、周りは一面の焼野原



鳥たちの楽園だった庭も、今では一面の焼野原

技工情報

◎ 石膏注入時のポイント

<アルジネート印象の場合>

表面が一層濡れていると気泡の巻き込みが防ぎ易くなります。

但し、濡れているからといい、印象面に水が溜まっている場合は、その部分の混水比が高くなり、面荒れの原因になってしまいます。

注入時の注意点は、一方向から一方通行で行います。

印象面の水分が過剰で石膏泥の流れていく先端の水分が過剰となった場合は、水分を追いやる様にして最後まで流し切ります。

そして、最後に満たした部分から多目に溢れさせて流れ出る様にします。



印象面の余剰水を切り、一層濡れた状態で一方向から注入を始める。

補綴物製作を行う支台歯側から行う。



仮に石膏泥先端の混水比が上がり「ゆるく」なってしまった場合、反対側より流し捨てる様にする。

<シリコン印象材の場合>

シリコン印象は、疎水性の為、濡れの状態がありません。

その為、隅角に気泡が入り易いので、界面活性剤を使用します。

但し、隅角部等に過剰に液が残ってしまうと面荒れの原因となるので、印象面に影響の無い圧でエアで吹き飛ばす様にします。

<各種の印象材による計量の目安>

※ 超硬石膏 ニューフジロック
硬石膏 ニュープラストーン

表1 各印象による石膏練と液の計量の目安(超硬石膏：ニューフジロック、硬石膏：ニュープラストーンを使用【いずれもジーシー】)

印象の種類	大きさ	石膏量	練と液量
クラウン・ブリッジ	全顎上：下 1：1	100g	超硬：20ml(g)／硬：23ml(g)
	片側上：下 1：1	50g	超硬：10ml(g)／硬：11.5ml(g)
義歯／スタディモデル	全顎上：下 1：1	200g	超硬：40ml(g)／硬：46ml(g)